

Kitakyusyu Fracture セミナー（第9回・10回）報告

善家 雄吉

平成23年9月に第1回が開催され、足掛け5年で本年節目の第10回を開催することが出来ました。名称の「Kitakyusyu Fracture セミナー」も徐々に浸透し、アドバンスコースに関しては、産業医大同門関係者のみならず、近隣の先生方にも数多くお越し頂けるようになって参りました。今後とも引き続きご支援何卒宜しくお願い致します。

第9回（ベーシックコース）テーマ；AO法の原理原則

会期 2015年09月12日(土) 13:30~18:10

会場 産業医科大学2号館 (2201・2202講義室)

<プログラム>

- ・ イントロダクション<開会ならびに勉強会概要> 善家雄吉 (産業医大)
- ・ 術前計画と心構え 弓指恵一 (産業医大救急部)
- ・ 作図ハンズオン 田島貴文 (産業医大修練指導医)
- ・ 手術準備 河野将吾 (産業医大若松病院手術室)
- ・ スクリューとプレートの仕組み 濱田大志 (産業医大修練医)

休憩

- ・ テンションバンド固定 柴田遼 (戸畑共立病院)
- ・ Conventional plating 辻村良賢 (産業医大修練医)
- ・ LCP & MIPO法 米良好正 (産業医大救急部)
- ・ 創外固定法 栗之丸直朗 (産業医大修練医)
- ・ 髄内釘固定法 小杉健二 (新産業医大修練医)

<ワークショップ>

1. lag screw technique, 2. conventional plating, 3. tensionband wiring,
4. LCP&MIPO (デピューシンセス)

奇数回はベーシックコースですが、マンネリ化しないためにも毎回何らかの変化を加えていくこととしております。今回は、作図ハンズオンというセッション

ョンを設けました。若手の先生のみならず、手術室看護師や学生さんにも実際に我々が行なっている、術前計画の一部を占める「作図」という行程を実際に味わって頂くという企画です。はじめて経験する方も多く、和気あいあいと考えながら手を使って実践して頂きました。このように手と頭を使っての共有体験は、知識・技術のブラッシュアップを図るうえで非常に有用な手段と思われまます。今後も継続していきたいと考えております。

図1 当院手術室Ns班（ワークショップにて）



図2 勢いで？入局を宣言した学生さん（医学部5年生）とともに



図3 第9回セミナー後集合写真



第10回（アドバンスコース）テーマ；外傷センター・骨盤骨折

会期 2016年02月27日（土） 14：00～18：30

会場 TKP小倉シティセンター KOKURAホール

<プログラム>

- ・ 開会の挨拶 酒井昭典（産業医大）
- ・ 講演1：「脆弱性骨盤骨折治療の up date」 座長 善家雄吉 / 演者 上田泰久（札幌徳洲会病院外傷センター部長）
- ・ 講演2：「インドガンガホスピタルの医療事情」 座長 善家雄吉 / 演者 森井北斗（埼玉医大総合医療センター高度救命救急センター助教）
- ・ 話題提供：「Short femoral nail を用いた転子部骨折の治療」 座長 大茂壽久 / 前原 孝（香川労災病院整形外科部長）

休憩

- ・ 特別講演1：「外傷センターにおける外傷治療のイノベーション」 座長 酒井昭典 / 演者 井口浩一（埼玉医大総合医療センター高度救命救急センター講師）
- ・ 特別講演2：「寛骨臼骨折の最近の傾向と対策」 座長 酒井昭典 / 演者 白濱正博（久留米大学整形外科 骨折外傷担当教授）

偶数回はアドバンスコースですが、今回のテーマは外傷センターに関する話題と骨盤骨折についてとしました。第10回のメモリアルコースということで、従来の産業医大講義室ではなく、近隣の先生方の利便性も考慮し、小倉での開催となりました。同門以外、或いは遠方よりご参加頂いた方々も多く盛況な会となりました。コンテンツですが、まず、札幌徳洲会病院の上田先生に脆弱性骨盤骨折の最近の話題についてお話頂きました。先生はまだ30代ですが、この分野において、今やオピニオンリーダーと言うべき存在で、札幌で多くの症例を経験されております。骨盤外傷の第一人者ドイツのロメンスならぬ、我が国のウエメンズであります。続いて、上田先生の大学の1つ学年上の先輩にあたる埼玉医大総合医療センターの森井先生には、インドガンガホスピタルの医療事情を話して頂きました。インドの軽快なミュージックに乗せながら、30分にわたり研修時の体験を披露して頂きました。先生の講演後、激しい外傷症例が集まるこのガンガホスピタルへ見学を希望される先生が数名おられたとのことです。私自身、5年以上前に訪れたことがありましたが、また行きたいという衝動にかられました。次に、話題提供ということで、香川労災病院の前原孝先生に新しいSFNであるTFNAの紹介を含めた大腿骨転子部骨折治療のお話をして頂きました。先生の大腿骨の「形態」に対する熱き想いを感じました。通常、講演前に演者のご略歴を座長がする訳ですが、この度は、座長自らがスライドを用いて演者の紹介をするという新しい試みがなされました。演者含め参加者一同なごみの時間となったことは言うまでもありません。そして、特別講演の2つに移りました。最初に埼玉医大総合医療センターの井口浩一先生に「外傷センターにおける外傷医療のイノベーション」のお話をして頂きました。井口先生は実家が北九州の小倉ということもあり、また翌日には先生の施設で、新しい外傷センターの開設が控えているということもあり、感慨深いものがあったとのことです。更には、御年90歳を超えられたお父様（何といまだ現役の産婦人科医師！）も先生の講演を聴講されるという父子愛を感じる微笑ましい一面を見せて頂きました。講演内容も我々参加者に大いなる刺激を与えて頂きました。そして最後は、日本骨折治療学会の理事長でもあります久留米大学の白濱正博先生に「寛骨臼骨折の最近の傾向と対策」を講演して頂きました。30年以上にわたる先生の寛骨臼骨折治療の豊富なご経験から溢れ出る、未だ衰えることのないパッションを感じました。特に、これから骨盤外傷に取り組もうという若い先生達にも興味を持ってもらえるような最近の話題も織り交ぜて頂きま

した。以上、非常に密度の濃いセミナーとなりました。セミナー終了後は講師陣を囲んで料亭で懇親会を行ないました。記念すべき会にふさわしい素晴らしい有意義な会で、北九州地区の外傷医療の何かが変わる！そんな予感を覚えた1日となりました。

図4 第10回セミナー終了後懇親会にて

